

## 研究紹介

# 実エンドウの品種育成の取り組み

## 1. はじめに

県内では日高地域を中心にウスイエンドウが栽培されていますが、露地栽培では夏秋期の高温により播種後の発芽や生育の不良、春先の温暖化による早期枯れ上がりが問題となっています。また、高齢化に伴う作業性の向上（短節間、早生）も課題となっています。ここでは、これらの問題に対応するため、当センターが現在取り組んでいる実エンドウ育種について紹介します。

## 2. 品種育成の取り組み状況

### (1) 短節間・早生品種

開花促進処理が不要で、収穫等管理作業の省力化を目的に、短節間1系統2品種と早生2品種を交雑し、短節間で早生、莢形質に優れる有望系統の選抜を進めています。現在、露地夏播き年内どり作型で早晩性と莢形質の調査を、秋播きハウス冬春どり作型で節間長や早晩性、莢形質の調査を行い、優良系統選抜を実施しています（写真1）。



写真1 短節間・早生系統の特性調査

### (2) 短節間・大莢品種

短節間2品種と大莢2品種を交雑し、短節間で大莢、莢形質に優れる品種の育成を目的に、交雑系統の世代促進と系統選抜を進めています。現在、露地秋播き冬春どり作型で節間長や莢形質を調査し、優良個体の選抜を行っています。

### (3) 高温条件下でも発芽率や生育が良好な品種

高温下での発芽率および生存率が高い選抜品種・系統と、「きしゅううすい」との交雑系統について、高温条件下における発芽試験を行い、耐暑性評価や莢形質による選抜を進めています。現在、17系統を選抜しており、露地およびハウス栽培での特性調査により更に選抜を行っています。

### (4) 収穫期後半の高温条件下でも生育に優れる品種

収穫期後半の高温条件下でも生育に優れる品種を作出するため、高温条件下での生育伸長性の評価法を検討しています。今後は、検討した評価法で選抜した品種・系統と主力品種の交雑系統を作出し、耐暑性評価や莢形質による選抜を行います。

## 3. おわりに

今後も引き続き、有望系統の選抜を進めるとともに、生産者や関係機関と連携しながら、現場のニーズに合った品種の育成に取り組んでいきます。（育種部 神藤 千乃）

和歌山県農業試験場暖地園芸センターニュース No. 55

令和7年2月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL:0738-23-4005 FAX:0738-22-6903

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengeicenter/003.htm>